

全ての子どもが輝くために、充実した支援を目指して

NO. 19

平成30年12月4日

葛南教育事務所 指導室

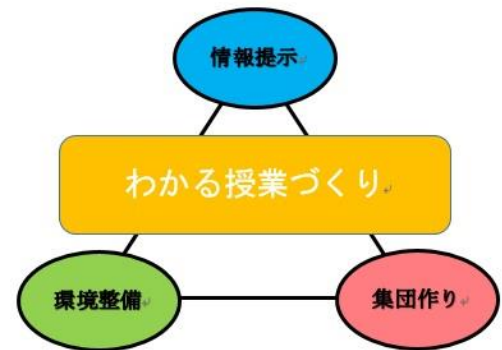
特別支援教育推進通信

特別支援教育班

わかる授業づくり(授業のユニバーサルデザイン)その2

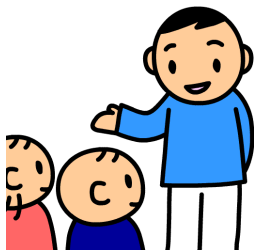
千葉県総合教育センターが発行している『ユニバーサルデザインの考え方に学ぶ どの子ども「わかる」「できる」をめざす支援の工夫 ヒント集』は、①情報提示、②環境整備、③学級集団づくりの3つの視点からまとめられたものです。(平成27年3月)

この3つの視点を取り入れた考え方は、「特別な支援を要する子どもに必要な支援は、他の子どもにとっても助けとなり、あればよりわかりやすくなる支援である」というもので、右の図のようなイメージになります。



3つの視点を合わせていくことで、より「わかる」「できる」につながる支援につなげていきます。

実態把握のためにできること



★「一斉指導では伝わらないので、個別に声をかけます」という支援をしていますか。「個別に声をかける」ということは、その子を気にかけているということなので、初期段階では間違いではありません。しかし、その子が困っている原因は様々です。そのために個別に声がかけられる位置まで行き、状況を確認することが大切です。

LD児等 行動兆候チェックリスト



(はじめにお読み下さい)

[1次調査\(小学生用\)\(PDF形式11.5K\)](#)

[1次調査\(中学生用\)\(PDF形式11.8K\)](#)

[行動兆候チェックリストについて\(PDF形式48.9K\)](#)

チェックリスト(自動計算)		チェックリスト(表のみ)	
	小学校1・2学年用(自動計算)XLS形式(147K)	小学校1・2年生用(表のみ)	XLS形式(131K) HTML形式(572K)
	小学校3～6学年用(自動計算)XLS形式(146K)	小学校3～6年生用(表のみ)	XLS形式(128K) HTML形式(573K)
	中学生用(自動計算)XLS形式(150K)	中学生用(表のみ)	XLS形式(131K) HTML形式(576K)

★千葉県総合教育センターのホームページに掲載されている「LD児等の行動兆候チェックリスト(小・中学生用)」を活用することで特別な教育的ニーズをもつ子どもの傾向を知ることができます。

実態把握のために活用することが、どの場面で支援が必要か整理しやすくなります。

どのように考えますか？

<ケース1>

授業中の説明や指示がうまく伝わらない子どもがいる場合

○ 確認してみましょう	
・ 全員の子どもが話し手にきちんと顔を向けていますか	<input type="checkbox"/>
・ 会話の中で、聞き逃しや聞き間違いのある子どもはいますか	<input type="checkbox"/>
・ 授業中、関係のない遊びや手悪戯をしている子どもはいますか	<input type="checkbox"/>



授業のユニバーサルデザイン

- ◇ 発問や説明をする前に「話をします」と前置きの指示を出し、話し手にきちんと顔を向けて聞く姿勢を作ります。
- ◇ 話に抑揚をつけることで、ポイントがつかみやすくします。また、ポイントとなる部分は、間をおいてゆっくり話すことで伝わりやすくします。
- ◇ 具体的な指示やイラストで、先生の言葉をイメージ化し、子どもの理解や行動を促します。

<ケース2>

板書に時間のかかる子どもがいる場合



○ 確認してみましょう	
・ 板書の文字は教室の後ろからも見やすい大きさですか	<input type="checkbox"/>
・ アンダーラインや枠の色のルールは統一されていますか	<input type="checkbox"/>
・ 授業の流れ（活動）がわかるような板書ですか	<input type="checkbox"/>

授業のユニバーサルデザイン

- ◇ 文字の大きさや色遣いを意識し、子どもにとって見やすく、写しやすくします。
- ◇ すべての授業で「板書のルール」を統一させることで、学習のめあてや大事なポイントが一目でわかるようにします。
- ◇ 授業の流れ（活動）がわかる板書をするので、学習や活動の要点をつかみやすくします。

※「特別支援教育推進通信4」と「特別支援教育推進通信5」でも、文字を書くことについての支援について掲載しています。